

第1回SCREENホールディングス・AFIテクノロジー共催ウェブセミナー

リキッドバイオプシーの 現状と未来



リキッドバイオプシーとは、血液などの体液を患者より採取し、その体液中に含まれている癌細胞や癌細胞由来物質を検査する、低侵襲性の技術です。

進行癌では癌組織から癌細胞が遊離して血液中を流れることが知られており、それを血中循環腫瘍細胞（CTC：Circulating tumor cells）と言います。CTCは血液1ml中に存在する血球50億個に対して1-100個程度しか存在しないといわれる非常に希少な細胞であり、これまでに様々なCTC検出法が研究されてきました。今回は日本医科大学消化器外科の山田先生をお招きし、CTCを抗体を用いずに採取する方法のご研究等についてご講演いただきます。

演者

日本医科大学消化器外科
病院教授 遺伝診療科部長兼任 **山田 岳史 先生**

2012年、我々がLiquid biopsy (LB)への取り組みを開始した時期には、LBは未来の医療に大きな変革をもたらす技術ではあるが、まだまだ近い未来に利用できるものではないと考えられていた。しかし、10年もたらずして保険適用され、多くの未了的研究が現在も行われている。一方で、10年たっても未だに解決できない問題も残っている。ctDNAには未だ大きな可能性があるが、その限界も見えてきた。しかし、細胞外小胞を用いることで、ctDNAにはできないことができるようになる可能性がある。CTCは抗体を用いずに採取する方法が次々に開発され、これらを用いることでCTCから培養細胞株やオルガノイドを作成できる可能性がでてきた。

2024年 2月14日(水) 15:00~16:00

お申込

<https://events.teams.microsoft.com/event/baf484be-bd1c-4b28-80fa-16a439c14e96@a54b00a2-87e8-4e92-a76d-de53269b7ddd>

参加費

無料

申込期限：2024年2月14日(水)14:00まで

会場

Teams開催

※ご自身の所属機関のメールアドレスでの参加申込をお願いします。
※誠に恐れ入りますが、競合・同業者様の参加はご遠慮頂いております。